

サマリア「明細書作成支援機能」2026年3月リリース調査レポート

エグゼクティブサマリー

2026年3月19日、パテント・インテグレーション株式会社¹は、生成AIを活用した新機能「明細書作成支援機能」をリリースしたと公表している（一次情報はPR TIMES² 配信の公式プレスリリース、ならびに同内容の再掲であるテレ東プラス³の外部リリース）。本機能は「完全自動化」ではなく、人間主体の実務フローを前提に、(1) 3つの開始導線（特許請求の範囲から／明細書下書きから／ゼロから）、(2) 段階的なドラフト生成（請求項→効果説明→用語・図面・符号説明→実施形態骨格→実施例詳細等）、(3) ブロック単位のAsk/Agent（確認→編集）、(4) ハイライトを維持した編集UI、(5) 承認後に反映されるアクション管理と復元可能な編集履歴、(6) 50以上のルールに基づく「明細書チェック」を中核としている。これにより、企業知財部の内製化（コスト低減）と、従属項・実施例追加等による品質向上を両立させる狙いが示されている。一方で、バージョン番号、入出力ファイル形式、外部API、料金・プラン変更、既知の制限事項などは、確認できた公開情報には明記がなく「未記載/不明」となる。（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁴（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

調査範囲と一次情報の到達度

本調査は、ユーザー指定の公式マニュアルURL（https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260319#p1_新機能「明細書作成支援機能」のリリース）を最優先に参照しようとしたが、当該マニュアルはJavaScript必須の構成であり、テキスト本文を取得・検証できなかった（表示上「You need to enable JavaScript to run this app.」と判定）。このため、マニュアル本文に依拠すべき項目（例：画面項目の細部、正式な版数表記、細かな制約、入出力仕様、価格・プラン等）は「未記載/不明」として扱う。（出典：https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260319、アクセス日: 2026-03-22）⁶

その上で、内容の一次情報としては、当該リリースを告知する公式プレスリリース（PR TIMES掲載）を主ソースとし、同文面を原文のまま再掲しているテレ東プラス外部リリースを相互参照して整合を確認した。補助的に、関連する前後アップデート（2025年末～2026年2月）をPR TIMESの公式リリースで補強し、また、プレスリリース内で言及された特許（特許第7744712号）については、J-GLOBAL⁷の公報要約情報で内容を突合した。（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁴（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵（出典：<https://jglobal.jst.go.jp/public/202503001664939777>、アクセス日: 2026-03-22）⁸

リリース概要

リリース情報として、公開情報から確実に抽出できる範囲を以下に整理する（不明点は「未記載/不明」）。

- ・リリース日：2026年3月19日（公表日）。（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁴（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

- 対象機能：明細書作成支援機能（ゼロベース起案～納品明細書のレビュー・加筆修正までを想定）。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵
- 版数（アプリのVersion/ビルド番号）：**未記載/不明**（指定マニュアル本文が取得できず、PR上でも明示なし）。（出典：https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260319、アクセス日: 2026-03-22）⁶
- 設計・監修：大瀬 佳之⁹ が設計・監修と記載。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵
- 関連特許（企業側主張）：明細書作成に関する重要特許として「特許第7744712号」を取得している旨の言及。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵
- その特許の要約（外部DBでの裏取り）：提案情報（発明が記載された情報）を取得し、生成AIへの指示と提案情報入力により仕様情報（要素・関係で構造化）を取得する、といった趣旨が要約に示されている。（出典：<https://jglobal.jst.go.jp/public/202503001664939777>、アクセス日: 2026-03-22）⁸
- 次回ウェビナー：2026年3月26日（木）15:00-16:00に、本機能紹介のウェビナー告知あり（講師は大瀬氏）。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

機能詳細とUI/UX

機能の全体像とユースケース

公開情報では、本機能は「単なる自動生成ツール」ではなく、人間の判断・確認を中心に据えて生成AIが補助的に関与することで、効率と品質の両立を狙う、と説明されている。背景として、生成AIが普及する一方で「特許明細書の完全自動化は難しい」という課題認識が明示されている。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

代表的ユースケースとして、以下の3パターンが明示されている。

- 発明提案書からの起案（企業知財部の内製化を想定）。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵
- 作成済み「特許請求の範囲」からの作成（事務所・企業弁理士の実務を想定）。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵
- 納品明細書・社内明細書のレビュー効率化（AIを使ったチェックと加筆修正）。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

UI/UX変更点として読み取れる要素

公開情報から読み取れるUI/UX上の要点は、**視認性（ハイライト維持）**と、**変更管理（承認制+履歴復元）**を強く意識している点にある。

- 「3つの開始方法」（導線）：**特許請求の範囲から／明細書下書きから／ゼロから**を用意し、業務フェーズに応じて開始できる。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵
- 「ハイライトエディタ」：キーワードハイライトを維持したまま本文編集ができ、AI生成結果を“そのまま採用”する前提ではなく、人間の確認・修正を前提に設計したと説明される。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵
- 「アクション管理と編集履歴」：人間とAIの操作を可視化し、各アクションは**承認後に本文反映**される（意図しない変更の防止）。履歴から任意状態への復元も可能とされる。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

機能ブレイクダウン

機能は大きく「ドラフト生成」「AIエージェント (Ask/Agent)」「明細書チェック」に整理できる。

ドラフト生成機能は、請求項作成から実施例作成までを段階的に支援するものとして、次のステップが明示されている。加えて、出力内容を調整するための入力（調整情報）を与えられる旨が記載されている。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

AIエージェント機能は、各ブロックに対して「Ask（質問）」と「Agent（編集）」を実行でき、Askで内容確認したうえでAgentを実行することで品質を担保しながら効率化する、という使い方が示される。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

明細書チェック機能は、特許明細書の記載不備を検出し、該当箇所を直接編集・修正できるとされる。チェックは**50以上のルール**に基づき、各不備には重要度ランク表示があるため、優先度を意識して修正できると説明されている。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

ユーザーワークフロー

公開情報に明示された機能を、実務の流れとして再構成すると次のようになる（※UIのボタン名・画面遷移の細部はマニュアル本文が読めないため「未記載/不明」）。

1. 開始導線を選択

「特許請求の範囲から」／「明細書下書きから」／「ゼロから」を選ぶ。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

2. ドラフト生成を段階的に実行（必要に応じて調整情報を入力）

1) 特許請求の範囲作成 → 2) 付記（効果説明）・イントロ生成 → 3) 先行技術文献挿入（必要に応じて） → 4) 用語・図面・符号説明生成 → 5) 実施形態骨格生成 → 6) 実施例詳細作成。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

3. ブロック単位で内容を検証・修正

各ブロックに対してAsk（質問）で確認し、必要ならAgent（編集）で修正する。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

4. ハイライトエディタで人間が読みやすい形でレビュー

キーワードハイライト維持のまま編集し、人間の確認・修正を前提に進める。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

5. アクション管理で変更を統制

AI/人の操作を可視化し、承認後に本文へ反映。履歴から復元も可能。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

6. 明細書チェックを実行し、重要度ランクを見ながら修正

50以上のルールで不備検出→該当箇所を直接編集・修正。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

7. 最終化・提出用ファイル化

出力形式（Word/Excel/PDF等）や提出用整形のサポート範囲は未記載/不明（少なくとも公開情報上は明示なし）。（出典：https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260319、アクセス日: 2026-03-22）⁶

公式スクリーンショットと画像URL

環境上、画像の埋め込みではなく、公式配信素材（PR TIMES由来の画像URL）を提示する。各画像はプレスリリース内の「すべての画像」等から参照されるもの。

- 図1：3つの利用導線（開始方法の選択）

画像URL：https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/86119/20/86119-20-0e50a15e6f558e4b15ddb4103bc25a59-2074x1166.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&quality=85%2C75&width=536

注目点：開始導線の提示（請求項起点／下書き起点／ゼロ起点）というUI思想の視覚化。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

- 図2：ドラフト生成機能（段階的生成の画面）

画像URL：https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/86119/20/86119-20-eb998a60bcc829cb041ada1c29da888c-2090x1170.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&quality=85%2C75&width=536

注目点：工程分割（ステップ式）でドラフトを作る設計。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

- 図3：AIエージェント機能（Ask/Agent）

画像URL：https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/86119/20/86119-20-bc32026b9091a52dc9df52f195edf1a2-2102x1174.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&quality=85%2C75&width=536

注目点：ブロック単位で「確認→編集」を回す前提（ワークフロー型）。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

- 図4：明細書チェック機能（50+ルール、重要度ランク）

画像URL：https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/86119/20/86119-20-172e4c5e859c788808e19016c8a46a3f-2086x1168.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&quality=85%2C75&width=536

注目点：チェック→該当箇所編集→重要度で優先度付け、の流れ。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

（補足）プレスリリース先頭のイメージ画像（「明細書作成支援機能を含む、あらゆる特許業務をサムリアで」）

画像URL：https://prcdn.freetls.fastly.net/release_image/86119/20/86119-20-96fadf8d6647714fe5bef5558f551f39-1341x1050.jpg?auto=webp&bg-color=fff&fit=bounds&format=jpeg&quality=85%2C75&width=536（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

旧機能との比較

以下の比較表は、(A) 2026年3月19日リリースの説明、(B) 過去のPR TIMES公式説明（2023年・2025年末～2026年2月）をもとに、「何が変わったか」を業務目線で整理したもの。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）¹⁰（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）¹¹（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）¹²

比較項目（機能）	以前の挙動	今回リリース後の挙動
明細書の起案（出願用明細書の作成支援）	2023年時点の公式説明では「特許書類等を作成する機能はありません」と明記（少なくとも当時は非提供）。※途中年度の段階差分は本表の範囲外。	ゼロベース起案からレビュー・加筆修正までを対象に「明細書作成支援機能」を提供（自動生成ではなく、人間主体フローを前提）。
開始導線（どこから作り始めるか）	未記載/不明（明細書作成機能自体が前提として存在しない時期あり）	「特許請求の範囲から」「明細書下書きから」「ゼロから」の3導線を用意。
ドラフト生成の工程設計	未記載/不明	請求項→効果説明/イントロ→（必要に応じて）先行技術→用語・図面・符号説明→実施形態骨格→実施例詳細、の段階的生成。
ブロック単位の対話・編集（Ask/Agent）	未記載/不明（拒絶対応等ではワークフロー型AIエージェントの言及はあるが、明細書ブロック単位のAsk/Agentは少なくとも本リリースの説明が初出）。	各ブロックにAsk（質問）とAgent（編集）を実行でき、確認→編集で品質担保しつつ効率化。
ハイライトを維持した編集	2023年時点で「キーワードのハイライト表示（読解）」は提供と説明。編集まで含むかは未記載/不明。	「ハイライトエディタ」により、キーワードハイライト維持のまま本文編集（人間の視認性を重視）。
変更統制（アクション承認・履歴復元）	未記載/不明	人間/AIの操作を可視化し、承認後に本文反映。編集履歴から任意状態へ復元可能。
明細書チェック	既存機能として「記載要件違反チェック」（明確性・サポート・実施可能・発明該当性・産業上利用可能性の5項目）説明あり。	「明細書チェック機能」として50以上のルールで不備検出、重要度ランク表示、該当箇所直接編集・修正を可能にすると説明。
出力（ファイル形式）	2026年1月の拒絶対応機能ではWord/Excelダウンロード対応が明記。無効化書面ではWord校閲・コメント付き出力が明記。	明細書作成支援機能の出力形式は未記載/不明（少なくとも確認できた公開情報では明示なし）。

運用・導入メモ

想定される業務上のメリット

プレスリリース上で明示される価値は、「内製化によるコスト削減」と「従属項・実施例追加などによる品質向上」を両立させる点にある。また、変更管理（承認制・履歴復元）を明示しているため、生成AIを使う際に実務上問題となりやすい“意図しない変更”を抑えつつ運用する設計思想が読み取れる。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

加えて、チェック機能が「50以上のルール」と説明され、重要度ランクも付くため、明細書レビューを“優先度付きの修正タスク”として扱える点が生産性面でのポイントになり得る（ただし、具体的なチェック項目一覧は未公開で「未記載/不明」）。（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

料金・プラン変更

本リリースに伴う料金・プラン変更は、確認できた公開情報（PR TIMES/テレ東プラスのリリース本文）には明記がなく、かつ指定マニュアル本文も取得できないため、**未記載/不明**とする。（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁴（出典：https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260319、アクセス日: 2026-03-22）⁶

タイムライン

以下は、2026年に公表された関連アップデート（+直前の2025年末アップデート）を時系列で整理したものの。根拠は各公式プレスリリース。（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）¹⁸（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）¹¹（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）¹⁶（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）¹⁷（出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000086119.html>、アクセス日: 2026-03-22）¹²（出典：<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>、アクセス日: 2026-03-22）⁵

timeline

title サマリア関連アップデート（2025末～2026年）

2025-12-24 : 新機能「調査支援ツール」（検索式・検索集合のAI自動作成）

2026-01-08 : 拒絶支援の新機能（応答方針コメント/意見書案・補正書案）+AI定量分析

2026-01-28 : 「審査官ラボ」とサービス連携（拒絶対応支援の文脈）

2026-02-12 : 「root ip クラウド」とサービス連携（案件管理×実務支援）

2026-02-20 : 特許無効化書面の作成支援機能

2026-03-19 : 新機能「明細書作成支援機能」リリース

2026-03-26 : ウェビナー（明細書作成支援機能の紹介予定）

¹ ³ ⁵ ⁹ ¹⁵ 生成AIを活用した明細書作成支援機能をリリース～人間主体の特許実務を前提に、品質と効率の両立を支援～ | テレ東・BSテレ東の読んで見て感じるメディア テレ東プラス
<https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>

² ¹¹ 「サマリア」の大幅アップデートー 新機能「応答方針コメント/意見書案・補正書案」作成機能のリリース、分析ツールで「AI定量解析」が可能にー | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000086119.html>

⁴ 生成AIを活用した明細書作成支援機能をリリース～人間主体の特許実務を前提に、品質と効率の両立を支援～ | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>

⁶ サマリア(Summaria) | 特許文書読解支援サービス
https://patent-i.com/summaria/manual/fee_payment

⁷ ¹² 業界初※、特許無効化書面の作成支援機能をリリース | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000086119.html>

⁸ プログラム、方法、情報処理装置、システム | 特許情報 | J-GLOBAL 科学技術総合リンクセンター
https://jglobal.jst.go.jp/public/202503001664939777?utm_source=chatgpt.com

10 特許読解アシスタント「サマリア」に知財実務を支援する革新的な3つの機能が追加【サービス無料提供中】 | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース

https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html?utm_source=chatgpt.com

13 弁理士、知財担当者の方々に向けたAIによる特許文書読解アシスタント「サマリア」提供開始 | パテント・インテグレーション株式会社

https://www.atpress.ne.jp/news/351500?utm_source=chatgpt.com

14 電子商取引における料金・代金の収納代行 指定商品・指定役務(サービス) | 商標(商標出願・登録商標) 情報

https://patent-i.com/tm/class_gs/

%E9%9B%BB%E5%AD%90%E5%95%86%E5%8F%96%E5%BC%95%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E6%96%99%E9%87%91%
utm_source=chatgpt.com

16 弊社サービス「サマリア」と日本国特許庁の審査官に関する統計情報提供サービス「審査官ラボ」がサービス連携。より価値の高い業務環境を目指して | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000086119.html>

17 特許検索競技大会の問題に「サマリア」が挑戦。集合上位100件について85%以上の再現率を達成！ / 導入実績360社超を誇る中小企業向け知財管理システム「root ip クラウド」とサービス連携を開始 | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000086119.html>

18 新機能「調査支援機能」のリリース・生成AIを用いた特許調査、分類、情報解析に関する基本特許3件を新たに取得 | パテント・インテグレーション株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000086119.html>